

---

 学 会 記 事
 

---

## 第46回新潟内分泌代謝同好会

日 時 昭和61年11月8日(土)

午後2時開会

会 場 新潟厚生年金会館

## 一 般 演 題

## 1. プランマー病に乳頭癌を合併した2例

梨本いづみ・鈴木 正孝 (新潟大学医学部  
他内分泌班一同 第一内科)  
江村 巖 (同 附属病院病理部)

症例1. 33歳の女性。甲状腺右葉に6.0×4.0cmの弾性硬の結節を認め、T<sub>3</sub> 3.2ng/ml, T<sub>4</sub> 15.3μg/dlと機能亢進症を示し、<sup>123</sup>Iシンチにて結節内へ強い集積を認め Plummer 病と診断した。手術所見にて結節内に乳頭癌を認めた。

症例2. 38歳の女性。甲状腺右葉に4.0×2.5cmの弾性軟の結節を認め、T<sub>3</sub> 31.2ng/ml, T<sub>4</sub> 15.4μg/dl, TSH 1.0μU/mlと機能亢進症を示し、<sup>123</sup>Iシンチにて結節内への強い集積を認め Plummer 病と診断した。手術所見にて右葉に被包化された結節と左葉に2個の微小癌の合併が認められ、右葉は強い好酸性細胞の増殖を伴う濾胞腺腫、左葉の2個は乳頭癌であった。Plummer 病に乳頭癌を合併することは比較的まれであり、症例2では強いHürthle cell化を伴っているので報告した。

## 2. CT 上下垂体腫瘍が疑われた原発性甲状腺機能低下症の1例

石塚 利江・小田 良彦 (新潟市民病院  
小児科)  
田中 直史・山田 彬 (同 内分泌科)  
本多 拓 (同 脳外科)

原発性甲状腺機能低下症で、CT 上腺腫様下垂体腫大をみとめ、ホルモン補充療法後短期間のうちに下垂体の縮小を確認し得た症例を経験したので報告した。

患者は13才の女性、低身長を主訴に受診した。発症年齢は身長増加率の低下から9才と推定された。粘液水腫特有の顔貌・身体所見を認め、神経学的には異常はなかった。

ホルモン検査では T<sub>3</sub>, T<sub>4</sub> の低値と TSH の著明高

値を認めたが、その他の下垂体ホルモンの異常はなかった。

トルコ鞍は拡大していたが骨破壊像はなかった。頭部CTにて下垂体は直径2cmに腫大し腫瘍様であり、造影剤にて増強効果がみられた。

ホルモン補充療法開始後、T<sub>3</sub>, T<sub>4</sub> の増加と TSH の低下が急速にみられた。7週目に施行したメトリザマイド CT において、下垂体の著しい縮小が認められた。また身長も急速に増加した。

## 3. 無月経、乳汁分泌を主訴とし、CT で下垂体腺腫を疑われた原発性甲状腺機能低下症の1例

八幡 和明・鈴木 丈吉 (厚生連中央総合  
病院 内科)  
中山 康夫

症例は30才女性。20才より耐寒能低下。25才稀発月経で治療。27才第1子出産後より易疲労感、無月経、乳汁分泌続く。昭和60年10月婦人科受診しCB154投与されるも、嘔吐出現した為内科入院。皮膚乾燥、眼瞼と下腿部に浮腫認め、圧迫にて乳汁分泌あり。T<sub>3</sub> < 0.25ng/ml, T<sub>4</sub> 0.05μg/dl, Free T<sub>4</sub> < 0.2ng/dl, ヨード摂取率1.8%, Microsome test 25600倍。プロラクチン(PRL) 40.3ng/ml, TSH 506.6μU/ml でいずれもTRH に対し過大反応を呈した。CT で下垂体の腫大を認め、下垂体腺腫の合併も否定できなかったが、甲状腺ホルモンの補充により下垂体の大きさは約4ヶ月で正常化したことより甲状腺機能低下症によるものと考えられた。乳汁分泌は5ヶ月で停止し、月経も発来し7ヶ月めに妊娠したが、自然流産した。補充開始とともにTSHは速やかに正常化した。PRLの正常化には4ヶ月を要し、TSH産生細胞とPRL産生細胞のTRHに対する感受性の相異によるものと考えられた。

## 4. 甲状腺低分化癌の臨床的検討

筒井 一哉・佐藤 幸示 (県立ガンセンター  
新潟病院 内科)  
鈴木 正武 (同 病理)  
佐野 宗明 (同 外科)

一般に予後のよい甲状腺分化癌も時に急激な経過をとる例を経験する。1980年、癌研の坂本らは標本の一部に乳頭状ないしは濾胞状構造の喪失をみ、充実部分のあるものを低分化癌として独立して扱うべきだと提唱した。

われわれは126例の分化癌の標本を見直なおし、いわゆるこの低分化癌を見だし、その臨床的検討を加えた。

結果：甲状腺低分化癌は分化癌の28%にみられ、高齢者に多く、濾胞癌の合併が多かった。術後5年生存率は高分化癌88.7%に比し、低分化癌は64.7%と低かった。手術時のTNM分類は両群に有意の差はなかったが、術後癌死もしくは担癌状態のものは高分化癌が22.5%に比し、低分化癌は63.6%と有意に多かった。

結論：以上より甲状腺分化癌は低分化癌と高分化癌に分けて治療すべきで、低分化癌は甲状腺全摘および<sup>131</sup>I治療が必要と思う。問題はいかに診断するかである。

### 5. 副甲状腺機能低下症の一例

高田 俊範・筒井 一哉 (県立ガンセンター)  
佐藤 幸示 (新潟病院 内科)

症例は16才女子。主訴は情緒不安定。昭和57年11月落ち着きがなく近医受診し、偽性副甲状腺機能低下症Ⅱ型と診断されビタミンD剤を内服。61年6月3日症状悪化のため初診、6月23日入院。テナニー・皮膚カンジダ症はない。入院時ALP 9.8K-A.U. Ca 7.4mg/dl P 4.7mg/dl。尿中Ca・P排泄低下、PTH 0.6ng/ml以下。頭部CTで尾状核・内包・前頭葉に石灰化、脳波ではθ波中心の徐波化、両眼には軽度の白内障を認めたが手X線検査では骨変化・皮下石灰化を認めない。PTH負荷試験でリン酸反応32.8mg/dlと低値、cyclic AMP反応は陽性。前者は陽性基準に達しないが誤差範囲とおもわれ特発性副甲状腺機能低下症と診断。またTSH 0.07μU/mlと低値でTRH負荷にても反応不良。しかしFree T<sub>3</sub>・Free T<sub>4</sub>は正常で病態をつかみかねた。

### 6. 興味ある褐色細胞腫の1例

吉岡 光明・坂爪 実 (上越総合病院)  
深川 光俊・関 剛 (内科)

発作型の褐色細胞腫の誘発テストとして、従来よりヒスタミンテスト、グルカゴンテスト、最近ではメトクロプラマイドテストが一般に行なわれている。我々は64才の糖尿病女性患者において、腹部エコーのスクリーニング検査にて偶然副腎腫瘍が発見され、内分泌学的な検索を行なっているうちに、CRH負荷テストで著明な血圧の上昇をひきおこした症例を経験した。CRHは100μgを静注したが、メトクロプラマイド10mg静注時と同程度の血圧上昇をひきおこした。近年CRHは各種内分泌の診断に有用な試薬として用いられており、負荷時には血圧の十分な観察も必要と考えられた。又、褐色細胞腫の中には、種々の神経ペプチドを産生、分泌する

ものが知られており、本症例もCRHに対して過敏な反応を示した興味ある症例と思われた。

### 7. 妊娠中に低K血症を合併したITPの1例

梨本いづみ・鈴木 正孝 (新潟大学医学部)  
他 内分泌班一同 (第一内科)  
内山 聖 (同 小児科)

症例は26歳の女性。第3子妊娠中に特発性紫斑病を発症し、精査治療のため当院産科入院。入院時検査にて低K血症を示摘された。プレドニン60mg/日、スローK 6T/日の投与をうけ、9月1日、正常出産するも、経過中低K血症が持続した。出産後NaCl 8g食にて血清Na 139, K 2.7, Cl 112mEq/Lで、尿中K排泄量は20~30mEq/日を示し、スローK 9Tの投与にて血清K値は正常に回復した。レニン活性は5.4~10.8と上昇していたが、血中アルドステロン及び尿中アルドステロン排泄は正常を示した。Kクリアランスは34.4ml/分と上昇していたが、ヘンレ上行脚でのCl再吸収率は正常範囲を示した。プレドニン投与前の低K血症については、妊娠後ヨクイニンを服用しており、Pseudo-Batterの可能性も疑われた。赤血球Na-Kポンプのreceptor数の増加が認められたが、病態との関連については不明である。副腎皮質ホルモンによる低K血症も疑われたが、今後さらに検索する予定である。

### 8. Hypernatremic hypodipsia syndromeを呈した老女の1例

星山 真理 (金沢病院 内科)  
藍沢 梯三郎 (藍沢 医院)

細胞内水分が少なく、耐力の低い老人は脱水に陥りやすい。私達は、意識障害、脱水、口渇不全を呈した老女の1例を経験したので報告する。

症例は80才の女性。本年8月中旬に気管支炎に罹患後、食思不振、発熱が改善せず、下旬に当科入院。入院時、血清Na 145mEq/L、脱水症状、傾眠傾向を認め、血液ガス分析では代謝性アルカロージスを認めた。輸液にて9月上旬には全身状態の改善をみた。

口渇不全、高Na血症の原因として内分泌学的検討を行なった。甲状腺機能はT<sub>3</sub>低値以外正常。血漿コルケゾール、ACTHも日内リズムの乱れ以外は正常。前葉機能も正常。24時間脱水後飲水負荷試験では、コントロールに比して、Angiotensin IIの低下が認められたが、脱水に対するADHの反応は維持されており、更に飲水負荷時の尿希釈能の低下が認められた。